



句集

寸景

鈴木直充

Suzuki Naomitsu

身辺や旅の風光をとして
心象風景の一齣ひと
こまを詠んできたが、
年々、出会う風物が親
しく、懐かしく感じら
れるようになってきた。
これは、たゆみなく句
作をつづけてきた果報
の一つであろうか。

(「あながき」より)

常の山見定めてより雑煮かな

本棚の一書を抜くや初埃

老木の瘤に手を当つ淑気かな

ぽこんぽこん亡き誰彼にきかせけり

七草の根のすくやかに芳しき

まつさきに石目覚めたる雪間かな

奥山のよく見ゆる日や水温む

春の雷茹で菜にぬくみのこりけり

落味噌を舐めて郷関出でし日よ

柏手の音佳く蝶の生まれけり

よきことを思へばよき日初雲雀

初燕大風連れて来りけり

子供らのいさかひ宥め種を蒔く

水草生ふ一つおぼえの子守唄

床下を三毛猫出づる遅日かな

亀鳴くや水に表とうらのあり

家々の朝のはじまる桜かな

城のある町の日暮や藤の花

東日本大震災
四句

雉子鳴け陸奥の地震鎮もるべし

陸奥の海山哭くや雪の果

みちのくの御霊みたまや花筏

亡き人と共に座らん花筵

淡海まで三日の旅や花曇

春雨の畑にももの焚く近江かな

比叡より初音の風や湖青む

奥琵琶湖春鮒十まり揚がりけり

春陰やあふみの鮎を捌く出刃

比良八荒がりがり齧る煎餅かな

千手観音そびらに春の闇溜めて

石段のあたりの湿り鳥の恋

鈍行の列車の匂ひ春ふかし

行く春や山疊なづきたたなづき

天の声地の声夏の立ちにけり

失せ物をさがす愉しさ閑古鳥

くもりても明るき日なり桐の花

若竹に引明けの雨あがりけり

山頂のうすき空気や不如帰

御来光ついで善男にはあらず

ひとすぢの流れのお花畑かな

雪溪に嚙まれたる岩雪溶かす

祭笛ちかづいて来る下山かな

左見右見子を呼ぶ鶺鴒に夕さりぬ

ががんぼと眠らん明かり消しにけり

真夜中は魑魅のくぐれる茅の輪かな

蠅取蜘蛛文机をつと占扱せり

竹夫人ささくれ出来てをりにけり

麦の秋用をつくつて外に出づる

傘雨忌や泡うかべたる神田川

寺町の端の豆腐屋走り梅雨

どくだみのつくづく白し誰も摘まず

著者略歴

鈴木直光（すずき・なおみつ）

昭和24年 山形県酒田市に生まれる

昭和46年 春燈俳句会入会
安住教・成瀬櫻桃子・鈴木榮子・安立公彦に師事
春燈同人

平成4年 「春燈新人賞」受賞

平成18年 句集『素影』上梓

俳人協会評議員、「塔の会」会員、「素の会」会員

春燈叢書第188輯

句集 ^{すんけい}寸景

2019年6月10日 発行

定 価：本体2800円（税別）

著 者 鈴木直光

発行者 奥田洋子

発行所 本阿弥書店

東京都千代田区神田須臾町2-1-8 三恵ビル 〒101-0064

電話 03(3294)7068(代) 振替 00100-5-164430

印刷・製本 日本ハイコム株式会社

ISBN 978-4-7768-1430-6 C0092 Printed in Japan

©Suzuki Naomitsu 2019